

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立第三寺島小学校
校長名	関口 亮治

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・ 34 項目中 32 項目で、平均正答率が全国平均以上であった。 ・ 対全国平均でみると、「思考・判断・表現」が「知識・技能」よりも高い水準にある。また、「活用」が「基礎」を上回っている教科が多い。 ・ 国語科において、「文章を書く」の平均正答率が全学年で全国平均以上であった。また、全国平均に対する割合が前年度より伸びているか同程度であった。	・ 基礎基本となる「知識・技能」の一層の定着を図る必要がある。 ・ 前年度に比べて無解答率が減少しているものの、依然として墨田区全体と比べると高い。粘り強く問題に取り組む姿勢を育成する必要がある。 ・ 算数科において、学習内容の定着が低位の児童の割合が前年度に比べて増加している。児童一人一人のつまずきを把握し、個に応じた指導、支援を充実させる必要がある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 「他者からの評価」や「発信力」について肯定的な回答が昨年度より増加している。 ・ 「対話・話し合い」について肯定的な回答が昨年度より増加しており、学力下位層においてグループで話し合う授業を楽しんでいると感じている。 ・ 昨年度と比べて「対人ストレス」が和らいでいる。	・ 肯定的な学級への所属感を基に「他者からの評価」や「発信力」をさらに伸ばしていく必要がある。 ・ 家庭学習を行っている時間や日数が昨年度と比べて減少している。 ・ 昨年度と比べて「社会参画」について肯定的な回答が減少し、学力が下位になるにつれて否定的な回答が増加する傾向にある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・全国学力・学習状況調査において、すべての観点で全国平均を上回っており、国語については都平均も上回っていた。 ・ほとんどの児童は毎日宿題に取り組んでおり、毎回宿題を提出している。 ・ペアやグループでの話し合いを活発に行える児童が多い。 ・学習活動に意欲的に取り組む児童が多い。	・全国学力・学習状況調査の結果でも、「思考・判断・表現」が「知識・技能」よりも高い水準にあり、「知識・技能」の一層の定着を図る必要がある。また、記述式の問題での無解答率が高いため、粘り強く問題に取り組む姿勢を育成する必要がある。 ・宿題の取り組み方に個人差があり、家庭学習の習慣化には至っていない児童がいる。 ・学級全体で考えを共有する場面において、すすんで発言する児童が偏る傾向にある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 主体的に学習に取り組む態度を高めるための取組

○校内研究の充実

- ・本校の研究主題を「粘り強く学びに向かいよりよい考えを求める児童の育成～算数科における対話を取り入れた学習過程のデザインを通して～」とし、非認知能力の育成も踏まえて、児童が粘り強く学習活動に取り組んだり、対話を通して自分の考えや学びをよりよいものにしようと調整したりすることができるように実践を重ねる。
- ・児童の興味や疑問を引き出す導入、興味や疑問を基に児童と決める授業のめあて、対話的になる学習活動など、学習後の児童の姿や身に付けさせたい資質・能力を意識して学習過程をデザインすることで、問題解決型の授業を充実させる。
- ・ペア、少人数グループ、全体など対話や協働の仕方を学習内容や学習の進め方に合わせて工夫したり、対話に関わる非認知能力を育成する活動を朝学習の時間（さんてらタイム）に行ったりすることで、児童が自分の考えを前向きに伝えたり相手の考えに共感・受容したりしやすくする。
- ・授業の終わりに振り返りの時間を設定し、授業のまとめや学習感想を言語化できるように指導の工夫をする。

○特別支援教育の視点をもった指導の充実

- ・個別支援の工夫（学習環境の整備、ルビ付き教材や学習シートの工夫、問題数の選択、ICTの活用）を行うことにより、児童の学習意欲を高め、児童が学習にすすんで取り組めるようにする。

(2) 学習内容の定着が低位の児童の学習意欲を高めるための取組

○基礎基本の学習の充実

- ・さんてらタイムの時間に、漢字、計算、言葉（語彙）の習得、短作文指導に全校で取り組む。
- ・墨田区学習状況調査の過去の問題を單元ごとに分割保存し、單元後のアウトプット課題として取り組む。
- ・ふりかえりシート、問題データベース、ミライシード等を活用して既習内容の定着を図る。

○放課後の学習機会の充実

- ・チャレンジ教室（1, 2年）の実施により、学習機会を確保し、学習習慣の定着を図る。
- ・放課後補習教室（3, 4年）の実施により、個に応じた指導・支援を充実させる。
→個に応じた教材の準備、担任と教室担当者の連携による習得状況の確認。

○算数少人数指導の効果的な実施

- ・テストの見直しまで習熟度別クラスで実施し、未習熟をなくす。

(3) 特定の教科学習を充実させるための取組

○国語科教育の充実

- ・視写、短作文、日記、感想文などに日常的に取り組み、文章を書く力をさらに高める。
- ・書くことに関する単元では、例文や書き方のポイントを示し、児童が文章を書きやすくなるようにする。音読、詩の暗唱等、良質な読み物に触れることで、文章を書く素地を築く。
- ・よむYOMUワークシート等を活用し、読むことの指導の工夫と充実を図る。

○理科教育の充実

- ・実験、観察を行うだけではなく、身の回りに見られる科学的な事象と結び付けて実験、観察を行うことで、「本物」から（体験を通して）学ぶことができるようにする。
- ・『児童の気付きや疑問→予想→実験・観察→結果→考察→まとめ・振り返り』という流れで授業を展開し、学んだことを言語化できるようにノート指導等の工夫をする。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・全学年、全教科で全国平均正答率以上にする。
- ・記述式問題を中心に、無解答率を墨田区以下にする。
- ・「他者からの評価」や「発信力」に関わる項目について肯定的な回答が増えるようにする。